

ドクターロード 医師へのインタビュー2025 レポート

■ 1年 ■ () 組 ■ () 番 ■ 名前 ()

医師へのインタビューについて、自分で書き留めたメモをまとめてレポートを完成させましょう。

■ お話を伺った先生

◇ 名前: 先生

◇ 診療科: 救急科

◇ プロフィール (簡単な経歴):
川崎医科大学 医学部 臨床 医学
救急 医中
臨床 助教 2年
日本集中治療医学会
日本救急医学会
日本感染医学会

■ 先生の診療科について
救急科は、急な病気やケガ(外傷、熱傷、中毒)で救命が最優先に初期診療を診療科です。
24時間365日体制で、稼働し、救急搬送される様々な患者に対応します。
重症患者の集中治療や、救急隊と連携した病院前医療、災害医療にも関わるなど、その役割は多岐にわたります。ドクターヘリなども活用します。

■ 見出し (先生が考えられている「医師の魅力について」30字程度まで)

良くも悪くも 医療現場では、医師がトップ!

<レポートには必ずタイトル・小見出しを付けること。付け方: 1 (1) ①の順番で>

1. 医師を目指したきっかけ

医師という職業は、人命を助ける重要な仕事です。大きな責任が問われる仕事であるから、医師を目指すには理由があります。佐々間先生は、「医師という職業は、経済的にも安定し、働き方にもある程度の自由がさく点に魅力を感じた」と率直にお話しくださいました。現実的な視点をもちつつ、将来を見据えて選んだ職業であることを伺えました。また、将来的に人生の選択肢を広げるための手段としても、医師という道を選ばれたとのことでした。

医師
金、自由、選択肢

2. 先生が医師を志したのはいつごろ?

先生が医師を目指し始めたのは高校生の頃で、当初は具体的な職業像があったわけではなく、どこかぼんやりとした理想やイメージをもちつつあったそうです。その「漠然とした医師像」は、次第に、自分なりの考えや価値観と結びつき、人生の可能性を広げるための道路として医師という道を選択する決断へとつながっていきました。

こうした思考の過程を経て、医師としての自覚と目標を明確にしながら歩んでこられた語ってくださいました。

高校生 → 高校生 → 高校生
医者ってどんな人だろう? (医者の奥にはこういうのが!) (大学から頑張るぞー!)

3. 佐々間先生が救急科を選んだ理由

医学生としての学びや、病室の現場を経験の中で、さまざまな専門分野と出会い、自身の志向や関心にあたり診療科を模索していききました。その中で惹かれたのが救急科でした。

救急科を選んだ理由については、「0から病状を見つけていくのが養えること」「限られた時間の中で適切な判断を下す対応力が求められること」が大きな魅力だったと語られました。

決められた診断フローに沿うのではなく、限られた情報から的確な診断結果を求めることや、未知の状況に柔軟に対応する姿勢が、自分自身の性格や興味と重なったそうです。

こうして、最初はぼんやりとしていた医師のイメージがだんだんと具体的になり、自分の意思で救急医という道を選び、目標に向かって歩んでこられたのです。

4. 医学生時代で一番大変だったこと

先生が一番大変だったことは、実習が本格化した時期だそう。勉強と現場の両立に余裕がなく、毎日忙しすぎて「やっとならなそう」。特に患者さんとの関わり方にはすごく悩んだそう。それでも、経験を重ねるうちに、少しずつ前に進めるようになったそうです。

■ インタビューを終えて

① 今回のインタビューを通して、あなたが感じた「医師の魅力」は何ですか。理由も付けて書きましょう。

インタビューを通して、医師という仕事は人の命を扱う厳しさだけでなく、日々の小さな判断や会話にも大きな意味があることを知りました。大変な状況でも、患者さんに寄り添い続ける姿勢に、強さと優しさを感じたのが印象的です。知識だけでは乗り越えられない現場のリアルに触れ、想像していた以上に人間らしい仕事だと感じました。この経験を通じて、「医師=完璧」ではなく、「医師=葛藤しながら進んで存在」だという視点がもてるようになりました。

② 医師への道を歩む決意を書きましょう。

僕はもう医師の道のルールに乗っかっていこうと決めています。これから先、勉強や努力が大変になることはわかっていますが、人の役に立ちたいという思いから、この道を選びました。まだまだ学ばなければならないことが多くありますが、決してあきらめず、一歩ずつ着実に進んでいきたいと思います。将来は、患者さんのかになる医師になりたいので、今からしっかりと準備を重ねていきます。

ドクターロード 医師へのインタビュー2025 レポート

■1年 ■()組 ■()番 ■名前()

医師へのインタビューについて、自分で書き留めたメモをまとめてレポートを完成させましょう。

■お話を伺った先生

◇ 名前: 先生

◇ 診療科: 放射線腫瘍学

- ◇ プロフィール (簡単な経歴):
 平成27年3月に山形医科大学を卒業
 ・日本医学放射線学会・日本放射線腫瘍学
 会治療専門医
 ・日本医学放射線学会研修指導者
 ・日本医学放射線学会放射線科専門医

■先生の診療科について

放射線科
放射線治療全般

■見出し (先生が考えられている「医師の魅力について」30字程度まで)

医師の魅力とは

医学という切り口で人生を見ることができることだ

<レポートには必ずタイトル・小見出しを付けること。付け方: 1 (1) ①の順番で>

1. 放射線科関連

放射線科とは、放射線を用いて、病気を診断し、治療をする科のことである

(1) 癌(がん)と呼ばれる悪性腫瘍はなぜ発症するのか

① 良性腫瘍と悪性腫瘍について

良性腫瘍、悪性腫瘍はどちらも遺伝子のエラーによって起きる(図1)

良性腫瘍とはどすはするが、増殖しない。

悪性腫瘍は増殖する → 骨などの血管の多い場所に移動する

② 対策方法

禁煙、節酒などの癌になりやすくなる物質を多く含むものの制限をする

常継介を受け、早期発見・早期治療を心がける

(2) 患者さんのためにしていること

① 治療をする前

患者さんの過去などを調べ、説明をしてから行う ← 心境の変化があるかもしれないため

② 治療をしている最中で大切にしていること

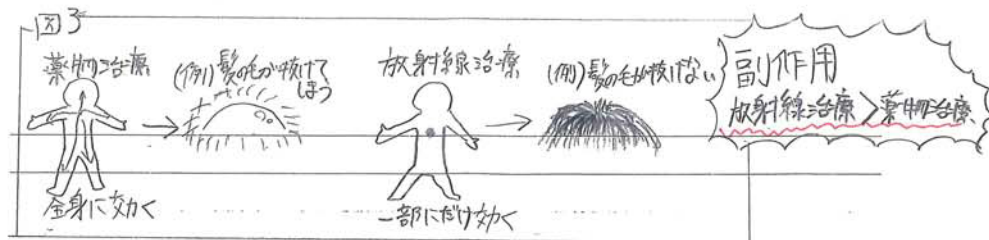
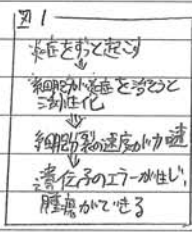
放射線治療が手術を病気を病気がよくなる(図2)

↑ 患者さんの臓器を守るため(今後の患者さんの生活のため)

(3) 放射線治療の良い所

薬物治療は薬が全身に広がってしまう上に、がんを治すことができないのに対し、

放射線治療は一部だけに効き、がんを治すことができる(図3)



2. 医師について (先生の経歴より)

(1) 医師になってから一番苦労したことは何ですか

→ 医師国家試験

理由: 覚えなければいけないことがとても多いため、ひたすら勉強。

大切なこと: 勉強をたくさんするのは良いことであるけれども、健康的な生活習慣をつけることも大切である (例) 朝6時に起き、夜12時に就寝

(2) 医師になろうと思ったきっかけ

祖母をがんてせした/ 末期がんの人との話 → 全てを治して、悔いがないようにしたい

↓
がんの治療をしたい

(3) 先生が医師として大切にしていること

治療が上手いことはあまりない

だから、一人一人の患者さんに全力を尽くす

患者さんの病気のだけでなく、患者さん自身

■インタビューを終えて

① 今回のインタビューを通して、あなたが感じた「医師の魅力」は何ですか。理由も付けて書きましょう。

僕が今回のインタビューを通して感じた「医師の魅力」は、先生が言っていた「医学という切り口で人生を見ること」だということだ。理由は、医師というのは、患者さんを診断して、病気がよくなるのを手伝ったり、甘々と患者さん一人一人との関わりは多く長いという所が、患者さんにとって、来世までの過程など、医学を通して、見ることができるとか、素敵だなと思ったから。

② 医師への道を歩む決意を書きましょう。

僕は、医師というのには、患者さんと長く関わり、またその患者さんの命を預かっている重要な職業だ、と再認識させられました。僕は、その人の命を預かる医師になるために、たくさん勉強をしたり、多くの人から頼られるような人になるために努力をしようと思えました。

ドクターロード 医師へのインタビュー2025 レポート

■1年 ■ () 組 ■ () 番 ■名前 ()

医師へのインタビューについて、自分で書き留めたメモをまとめてレポートを完成させましょう。

■お話を伺った先生

- ◇ 名前: _____ 先生
- ◇ 診療科: 健康管理学
- ◇ プロフィール (簡単な経歴):

日本腎臓学会腎臓専門医・指導医
日本透析医学会透析専門医・指導医
日本内科学会認定内科医・総合内科専門医
日本医師会認定産業医

■先生の診療科について

質の高い人間ドックや健康診断を行なっている。健康リスクを早期に見出し、健康的な生活習慣を定着させるための適切なアドバイスと実践している。

■見出し (先生が考えられている「医師の魅力について」30字程度まで)

人の為になる仕事であり、臨床医も基礎研究医も同様。患者さんに、アプローチできること。

<レポートには必ずタイトル・小見出しを付けること。付け方: 1 (1) ①の順番で>

1. 医師になると思った理由ときっかけ

(1) 小さい頃から人のために働く真面目な仕事に就きたいと思っており、高校生の時に述べた志、医学部に進んだ産科医の時に白血病の患者さんを担当し、解剖や研究では直接患者さんに関わることができず、臨床医を本格的に目指す。

2. 健康管理学を選んだ理由や他の科のやりがい

(1) 産業医として工場に行くと、クーラーの温度調節や健康診断に興味を持ち、また、コロナ禍の中でアメリカに行くと、CDCというアメリカ疾病予防管理センターでコロナウイルスなど、世界中の病原や公衆衛生に興味を持ち、そして、病気に予防で止めたこと、腎臓内科から健康管理学科に移された。

(2) 新しい原因を見つけることがやりがいである。結果は一瞬であるが、調べる際に組むプログラムを打ち込むのが大変だ。

3. 患者さんと接する際と大切にしていること

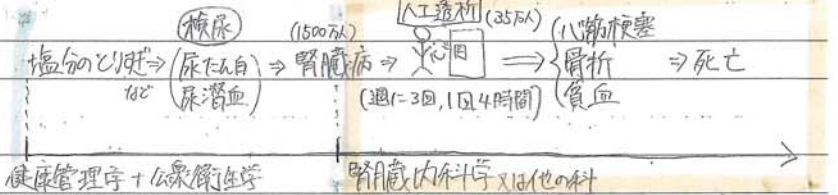
(1) コミュニケーション、初対面ではバリアがあるので、分かりやすい言葉で何もない会話、心を開くことが大事。また、患者さんだけでなく家族や看護士さんなど、身近な人達と連携して、患者さんを中心としたチーム医療をするということ大切にしている。



4.

- (1) 自分の診ていた患者さんが多くならないのがつらかった。しかし、その患者さんから学んだ知識やコミュニケーションを次の患者さんに活かし、多くの患者さんのためにも、次の患者さんのためにもなった。
- (2) 別科医の時に無休で働いていた上にバイト産業医もしていたため、その時期がとて大変だった。

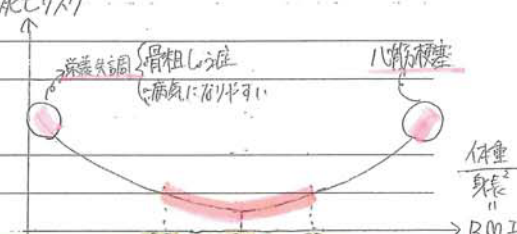
5.



このように、健康管理学は「病気」と診断される前に「食生活など日常生活の見直しを促し、「病気」となるのを防ぐ」腎臓や循環器などの臓器も全て健康管理学につながっている。

6.

- (1) 塩分を減らす (1日平均12g目標: 6g)
- (2) 適度な有酸素運動を週に2-3回30分する。
- (3) 朝食は必ずとり、満遍なく食べる。
- (4) 脳が覚醒している時は何もしない。
- (5) BMIは18.5~25を目標にする。
- (6) ストレスをためないように心がける。



■インタビューを終えて

- ① 今回のインタビューを通して、あなたが感じた「医師の魅力」は何ですか。理由も付けて書きましょう。
人の人生に深く関わり、人の命や健康を守ることができるところです。理由は3つあります。1つ目は人の役に立てるやりがいです。医師は、けがや病気に苦しむ人に寄り添って治療し、命を救う仕事だからです。2つ目は専門性と知識の深さです。高度な知識と技術を身に付け、常に学び続けることで、難しい病気にも対応できるようになります。3つ目は社会的信頼と安定です。医師は社会的にも信頼される職業であり、医師は人間にとって必要不可欠な分野だからです。このように、医師は知識・技術・人間性を活かして社会に貢献したり、辛いことがあっても前向きに次の病気に向かって進む意義のある仕事だといえるから。
- ② 医師への道を歩む決意を書きましょう。
私が医師を目指すのは人の命と健康に向き合い、その人の人生に深く関わることを目指す職業だからです。医師は身体だけでなく心や人生に寄り添い、不安や苦しみを和らげる役割も果たします。その責任に対する恐れはありますが、それ以上に人の役に立てるやりがいのある仕事だと感じています。医学の道は決して容易ではありませんが、誰にのかわりにいたいという深い責任と努力と信頼する医師に在るよう決意を固めました。